



STEP BY STEP

風は吹いているけれど…

梅が咲き始めたとは言え、まだまだ寒い日が続いています。袴田巖さんの無罪確定は間違いなく司法の世界に風穴を開けたようです。80年代の死刑4事件に続き、死刑台からの5人目の生還です。「冤罪」に対する世間の関心はかつてないほど高まっています。

そして、法務省が再審制度の見直しをするために法制審議会に諮問する方針、というニュースが昨年12月10日に流れました。いよいよ法務省が重い腰を上げて本気になっているのか、再審法改正は目の前まで来ているぞ！ と受け止めた方も多いと思います。しかし、（水を差すようで申し訳ないのですが）実はこれが大違いなのです。

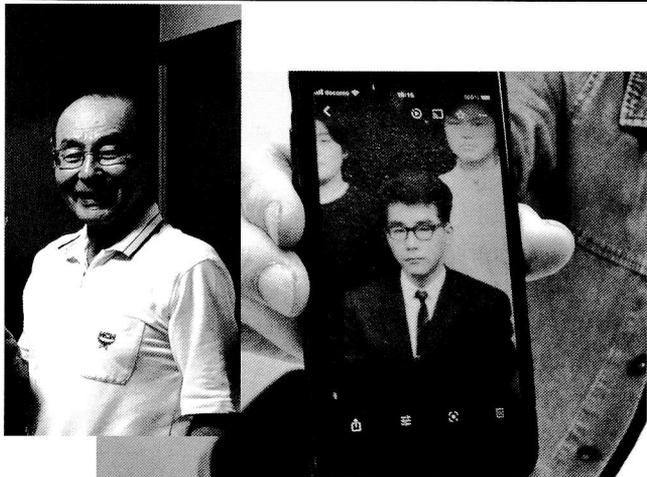
この数年、「再審法改正をめざす市民の会」と私たち「冤罪犠牲者の会」は何回も国会議員会館をまわり、国会議員のすべての事務所を訪ね、資料を渡して、再審法改正の必要性を訴えてきました。当初は議員事務所での冷たい対応に戸惑いましたが、徐々に話を聞いてくれる議員や秘書が増えてきました。そして昨年、ようやく、超党派の「えん罪犠牲者のための再審法改正を早期に実現する議員連盟」が結成されました。土台を作ったという点では私たちも頑張ったと自負しています。

その議員連盟も国会議員の過半数が名を連ねる大所帯となりました。袴田巖さんが逮捕から雪冤まで58年を要していること。それに対して畝本直美検事総長は、無罪判決を受けて反省することなく、「証拠の捏造については承服しがたい」と文句を言う始末。これがまかり通るようでは何も変わりません。このような再審法の不備を超党派の議員連盟が議論し、議員立法で法案提出、早期の再審法改正を目指しています。

ところが法務省は国民に口を出してほしくないようです。私たちが国会議員会館をまわっているときさえ、法務省は「私たちがしっかり仕事するので法改正は不要です」とロビー活動を行っていたのです。法制審に諮って、一から議論すれば更に何年もかかります。国会議員の過半数が法改正に賛同している現在、議員立法なら時間はかかりません。法改正を待ち望んでいる人もたくさんいらっしゃいます。

再審法の改正を求める意見書採択は現在、500以上の自治体で採択され、都道府県レベルでも21の道県が採択しています。機は熟しています。法務省による「妨害(?)」を監視しながら、私たちは今月、再度、国会議員会館をまわる予定です。東京近郊の方で参加したい方は事務局までご連絡ください。（事務局/なつし聡）





折山敏夫さんの近影と社会人デビューした頃の1枚。

冤罪犠牲者の会が発足してから、間もなく6年になります。この間の事務局会議は、何と暖かく、そして楽しかったことでしょうか。月に一度の定例会議がやってくるのを、私はいつも心待ちにしていました。

私は「遺体は誰？ 折山事件」という冤罪事件と闘い続けて、もう40年になります。関係者でなければ、ほとんど知られていないマイナーな事件です。お上が決めた確定判決に抵抗しようというのですから、再審請求が一般市民から歓迎されることはありません。いうなれば、私たち冤罪犠牲者は世の中の日陰者です。胸を張って堂々と生きることは難しく、どちらかと言

えば、いつも下を向いて、上目遣いで周りを窺いながら、控えめに生活しているのが現状です。

ところが、冤罪犠牲者の会の定例会の時だけは違います。この場では、私が主役になれるのです。厳しく追及したり、叱責する人は誰もいません。事務局の皆が、全面的に寄り添ってくれるのです。私は堂々と自分の事件の状況を報告し、ときには議論を持ちかけ、思いの丈をぶちまけることができます。それに対して、誰もが耳を傾け、うなずき、共感し、励ましてくれるのです。

以前は孤独な闘いでした。弁護士はいましたが、彼らは仕事として関わっているため、必ずしも本音で対応してくれているとは限りません。心がくじけ、何度も諦めかけ、挫折しそうになりました。もしひとりで闘っていたなら、おそらく40年も続かなかっただしょう。

世の中には、数え切れないほど多くの冤罪事件があり、悔しい思いをしている人がたくさんいます。しかし、ひとりで闘っても絶対に勝てません。心が折れそうになったときはここに仲間がいることを思い出してください。事務局の面々は、皆優しいですよ。頼りにできます。

袴田事件の再審無罪を契機として、一般市民の冤罪に対する認識が変わりつつあるように感じます。今がチャンスです。もう少し声を大きくし、再審に関する法改正を実現していきましょう。事務局の皆は、本気です。やる気です。（つづく）

（「遺体は誰？ 折山事件」再審請求人/折山敏夫）

小石川事件

まだまだ闘っている最中の事件があります。
このコーナーではそんな事件をご紹介します。

小石川事件については現在、第二次再審請求に向けて弁護団の先生方と共に努力しているところです。第一次再審ではDNA鑑定をはじめ、様々な鑑定結果を突きつけて、犯人は私ではないと訴えましたが、裁判所はそれらの科学的証拠をすべて無視し、棄却をしました。

物色をしたとされる場所から私の指紋は検出されず、服の繊維一本も、私の髪の毛一本も、汗の一滴さえ残っていない。そして、凶器となったタオルからは私のDNA型が検出されていないばかりか、関係者の誰のものとも一致しないDNAが検出されており、このDNA型が犯人のものであることは明らかです。

鑑定結果以外にも不自然な点などは多岐に渡って存在しますが、それらの事実真挚に向き合う姿勢は全く感じられませんでした。どれだけの証拠を提出しても、裁判官が最初から棄却ありきの態度で臨んでいけば、けして再審は認められない、それが再審の実態なのだ痛感しました。

そのような現状を変えていくためには、捜査側や裁判所の再審に対する姿勢を改めさせるよう、再審法の改正が必要です。とりわけ証拠開示は重要です。無実の人が有罪とされ

るからには、殆どの冤罪事件で無実の証拠が隠されている筈です。

再審法改正実現のため、そして小石川事件での再審勝利のため、どうか皆様のご支援、後押しをお願い致します。(再審請求人/伊原康介)

神戸質店事件

私は無実です — これを刑務所内で声高に訴え続けると、他囚から何かと目の敵にされます。辛酸を嘗め、他囚との生活習慣や公衆道徳、衛生感、価値観の違いに妥協する精神的苦痛を克服するのにかなりの時間が必要でしたし、未だに私を反目(はんめ：敵を示す受刑者の符牒・隠語)とする者が多くいます。だが、コロナ禍が始まる前後から、私の日頃の生活態度や刑務作業でのひととなり認め、「(再審)頑張れよ」と励まし、旧知の友人の如く、他愛ない冗談から深い人生論まで交わし合える仲間も増えました。



釣りに興じる緒方秀彦さん。この笑顔をもう一度!

まだまだ娑婆での自分の行動規範や真情を吐露しては居場所が見つからなくなることも多々あります。しかし、当所に来た直後のように、雪冤を目指すことと、受刑者として更生していくという逆方向のベクトルを求めていく — 謂わば旧街道の追分にぶち当たって止まる旅人のように、落ち込んでストレスを溜めるようなことは金輪際止めようと心に決めました。

私は私の思うままにいいのだと改めて肝に銘じ、ただ再審を成し、雪冤することのみに徹することが私の将来を形作り、私の無実を信じて支援してくださっている方々に報いる唯一の道であると確信するようになりました。

弁護団やイノセンス・プロジェクト・ジャパン、日本国民救援会や貴会などのご尽力によって、近日中に再審請求という運びになりそうです。今、最も大事な時期を迎えています。皆様のお導きで、この、夏暑く冬寒い地獄から救い出してください。宜しくお願い致します。(岡山刑務所在監/緒方秀彦)

※それぞれの事件を更に詳しく知りたい方は各サイトでご確認ください。

遺体は誰?
折山事件



小石川事件



神戸質店事件



■今月の一句■

我が花見 塀に囲まれ咲く梅 肩身せましと重なり合って (岡山刑務所在監/杠共芳)
(岡山刑務所在監/杠共芳)



■今月のオススメ■

売れてます! ↓

「違法捜査と冤罪～捜査官! その行為は違法です。」[第2版]
木谷明著

元刑事裁判官・木谷明が誤った裁判による冤罪事件の実相を語る!
【内容紹介】捜査機関の違法捜査により誤判となった多くの事件の原因と問題を元裁判官が明らかにした書籍の最新版。警察官、検察官の証拠隠しや捏造、嘘。それらの違法捜査を見抜かなかつたことによる誤った裁判の実相が明かされる。新たに近時注目の袴田事件ほか、プレサンス元社長事件、大川原化工機事件を追加。
日本評論社 2090円

■編集後記■

折山さんのコラムにもあるように、冤罪犠牲者の会は6年めを迎えました。普通なら6周年を記念して大々的にイベントを…という発想になるのですが、大きなイベントを開いても開催地に近い人しか参加できないし、むしろ勉強会と称して、気楽に参加出来て発言できる小さなイベントをあちこちで開催したほうが参加できる方が増えるかなと考えています。東京だけでなく、関西でも開催していきたいと考えています。ご期待ください。

それから、26号でもお知らせしましたが、新会員の方から「発言の機会はないのか？」とメールをいただきました。本来なら総会を開いて皆さんの意見を聞くのが良いのですが、これも開催地に近い会員しか参加が出来なくなります。そこで、これまでの会の活動をまとめた冊子を作成しようとして計画しています。冤罪犠牲者の会に対するご意見、気がついたこと、メッセージ、気になることをメールでお寄せ下さい。冤罪に関することなら何でもOK！皆さんのお考えをそのまま掲載いたします。メールには実名か匿名希望かを明記して戴けると助かります。

会員の皆さんのお考え、ご意見が詰まった飾らない冊子、総会の代わりになるような冊子を目指したいと思えます。是非、ご参加ください。たくさんの方のメールをお待ちしています。（事務局長/なつし聡）

■ ■ 冤罪犠牲者の会は当会の主旨に賛同していただける仲間を集めています！ ■ ■

「冤罪犠牲者の会」が結成されたのが2019年3月2日。お陰様で少しずつ会員が増え、現在、270名を超えました。冤罪に巻き込まれてしまい、闘っている人、再審を目指している人、無罪を勝ち取った人が約50名、獄中で無実を叫んでいる人が約30名、近親者・支援者が約190名で構成されています。冤罪撲滅に力を貸して下さる方を募集中です。冤罪に関心をお持ちの方がお近くにいらっしゃったら是非、声をかけてあげてください。

年会費:個人会員(正会員)2000円

「冤罪犠牲者の会」の口座

◎現金払込・ゆうちょ間送金の場合

記号番号 00150-7-515181

口座名称 冤罪犠牲者の会

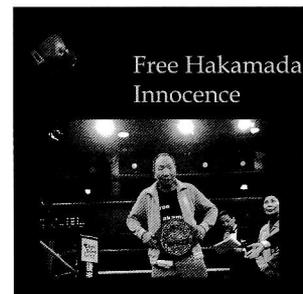
◎他行からの送金の場合

金融機関 ゆうちょ銀行(金融機関コード 9900)

支店 ○一八店(ゼロイチハチ店) 店番 018

預金種目 普通 口座番号 9884160

口座名義 エンザイギセイシヤノカイ



■ CD「Free Hakamada」発売中！

Amazonや全国のCDショップでご注文できます。売上は冤罪撲滅を目指す支援団体に寄付します。

◎5月末で西新宿にありました桜井司法研究所は閉鎖しました。当面の連絡先は下記四角内の私書箱が当会の宛先となります。冤罪犠牲者の会の常駐スタッフはおりません。

お急ぎの場合は080-5182-3911(なつし聡)へご連絡ください。

◎PayPalでの会費納入は利用者が少ないため、今後はゆうちょ銀行への振込のみとさせていただきます。

発行：冤罪犠牲者の会

〒160-0022 新宿区新宿4-1-22 新宿コムロビル私書箱702号

<https://enzai.org/> e-mail: info@enzai.org

発行責任者：なつし聡